



Proceedings of the 22th Comprehensive Scientific Study Convention

ISSN 0913-6584

of the Japan Scientists' Association

Held in Okinawa, DECEMBER 2018

# 日本科学者会議 第22回総合学術研究集会

平和で持続可能な社会を  
— 沖縄から考える —

## 予稿集

2018年12月7日(金)～9日(日)

於 琉球大学 (沖縄県西原町)

日本科学者会議第22回総合学術研究集会 実行委員会

## 日本科学者会議第 22 回総合学術研究集会の の沖縄開催に当たって

実行委員長 屋富祖建樹 Yafuso Tateki（沖縄支部）

第 22 回総合学術研究集会（略称「22 総学」）が『平和で持続可能な社会を－沖縄から考える－』をメインテーマに琉球大学を会場として開催されることになりました。

JSA はその創設以来 50 年に亘って科学者と市民を結び、平和、教育、生活、核兵器廃絶、原発廃止などのさまざまな課題について市民と共に解決策を考えてきました。

今、東アジアでは冷戦構造の緩和に向かって歴史が大きく動き出そうとしています。3 度に亘る南北首脳会談と、6 月 12 日の米朝首脳会談で、朝鮮半島の非核化と平和体制構築への合意が交わされました。この歴史的流れを後戻りさせてはなりません。私たちもこの流れを押し進める側に立ちたいと強く思うものです。

しかし、安倍内閣は東アジアに起こりつつある平和への流れに逆行するかのよう、憲法 9 条を改定しようとし、自衛隊をアメリカと共に地球の裏側まで派遣できる仕組みづくりに熱中しています。

沖縄では今、辺野古新基地建設を押し進める安倍政権とそれに反対する県民との間の激しいせめぎ合いが続いています。翁長前知事は 7 月 27 日、辺野古埋立承認の「撤回」を表明しましたが、8 月 8 日に急逝しました。翁長前知事に基づいて知事の職務代理者は 8 月 31 日に承認を「撤回」しました。安倍政権はこの撤回の執行を停止するための「行政不服審査法」による「執行停止の申し立て」等を狙っていましたが、知事選挙への影響を恐れて選挙後までその提出を延ばしました。しかし、9 月 30 日に行われた知事選挙では、辺野古新基地建設に反対する玉城デニー氏が、安倍内閣と自民党・公明党・維新の会が総がかりで押した前宜野湾市長の佐喜真淳氏を、8 万票余の大差で破りました。これに続く豊見城市長選挙と那覇市長選挙においても、新基地建設に反対する山川仁氏と城間幹子氏が当選し、特に城間氏は相手候補に 3 万票差をつけての圧勝でした。これらの選挙結果は、沖縄県民は日本政府による基地押し付け政策には絶対に屈しないとの強い意思を示すものとなりました。

これらの県民の意思を無視して、安倍政権は 10 月 17 日沖縄防衛局長中嶋浩一郎名で埋立承認撤回処分取消の審査請求と執行停止申立てを行いました。玉城デニー沖縄県知事は 10 月 25 日にこれに反論する「意見書」（200 頁に及ぶ）を政府に提出しましたが、土日を挟んでわずか 5 日後の 10 月 30 日には、石井啓一国土交通相は沖縄県による埋

立承認撤回の執行停止を決定しました。実質2日間で十分な検討がなされたとは、到底考えられません。続いて、政府は11月1日から土砂投入に向けての工事再開を宣言し、そのための作業を開始しました。沖縄県民が何と言おうが耳を傾ける気は無いというわけです。

今埋められようとしている辺野古の干潟は、アジア大陸とつながっていたところからの地史的〈時間的〉要素と、現在も黒潮によって運ばれる海生生物の空間的分布要素を合わせ持つ、世界に類のない干潟であり、報告されているだけでも5800種の生物が生息しています(いました)。この干潟が、分厚い護岸に全域囲まれて潮の出入りもなく、夏の高温に曝され続け、取り返しのつかない状態になっています。

地球上で唯一、やんばるに残された湿潤亜熱帯照葉樹林を破壊し、その山々が抱き育んできた大浦の海をも埋め立てて、しゃにむに米軍基地を建設する日本政府と、それを求める米国政府の真の目的は、自衛隊が推し進めている奄美大島から宮古島、石垣島、与那国島に至る琉球列島およびグアム島などを足場にした対中国軍事包囲網の完成にあります。

22総学を沖縄の地で開催することの今日的意義は、平和への歴史的な流れが生まれつつある東アジアで、それに逆行するかのような日本政府の軍事政策を直接肌で感じながら議論できることにあると思います。

エクスカージョンで予定されている辺野古の闘争現場、普天間・嘉手納など米軍基地の視察と現地住民との交流、西表島のマングローブ観察、伊江島の宿泊視察などは、きっと皆さんのこれからの諸活動の原動力になってくれるものと思っています。

22総学は、沖縄観光コンベンションビューローおよび琉球大学後援財団から助成を受けて開催されます。また、琉球大学の規程により教室使用料を免除され、琉球大学学生部・ジェンダー協働推進室、琉球大学生協から運営面の支援助言を受けています。沖縄県平和委員会にはエクスカージョンの平和ガイド派遣に協力していただきました。ここに記して謝意を表します。

## 行事日程

### 12月 7日（金）

- 9:00～ エクスカーション 中部基地視察 沖縄県庁前発 ～ 13:30 琉大着  
13:00～ 大学会館 受付開始、ポスター発表・展示開始  
14:00～17:40 大学会館 全体会 1 基地のない沖縄、平和憲法と共に歩む日本を展望する  
18:30～20:50 大学会館 特別講演会：沖縄に持続可能な社会を築くために  
21:00～ 北食堂前 那覇行きバス発車

### 12月 8日（土）

- 9:00～12:00 共通教育棟 分科会 1  
12:00～13:00 大学会館 ポスター発表コアタイム  
13:00～15:05 大学会館 全体会 2：若者と一緒に考えるわたしたちの社会－沖縄から考える－  
15:15～18:15 共通教育棟 分科会 2  
18:30～20:30 生協北食堂 懇親会  
20:45～ 北食堂前 那覇行きバス発車

### 12月 9日（日）

- 9:00～12:00 共通教育棟 分科会 3  
12:15～13:45 大学会館 全体会 3：憲法・地位協定をめぐる課題と向き合う  
14:00～16:00 大学会館 討論集会：市民・社会とともにある科学の発展に向けて  
16:15～ 北食堂前 空港・那覇行きバス発車

### 12月 10日（月）

- 8:00～ エクスカーション 伊江島・辺野古 沖縄県庁前発・11日那覇空港解散  
8:00～ エクスカーション 北部基地・視察 沖縄県庁前発・10日那覇空港解散  
9:15～ エクスカーション 西表島マングローブ 石垣港集合・11日石垣港解散

◆**大学構内での事故・急病など** 北口守衛室 098-895-8081 は 24 時間対応します。また、実行委員会緊急連絡先 090-1942-3094 に御連絡くだされば、可能な限り対応します。

◆**荒天・災害時の対応** 暴風警報や避難指示等が発令されると、公共交通は停止し、行事は中止されます。原則として解除 2 時間後に行事は再開可能です。<http://www.bousai.okinawa.jp/>

大手航空会社は、台風接近・公共交通の運休や遅延等の不可抗力で旅程変更を余儀なくされた場合には、申し出れば航空券の種別に関係なく手数料なしで便の変更が可能です。LCC の場合は扱いが異なります。事前に利用便の契約条件・手続方法をお確かめ下さい。

災害時に足止めされた旅客に対しては、多くのホテルが空き室を低料金で提供しています。

## 琉球大学へのアクセスマップ・千原キャンパスマップ

■ゆいレール（モノレール） 那覇空港駅→首里駅、27分 330円。

■路線バス 琉球大学には**高速バス** 111/152番、**路線バス市外線** 94（平日のみ）/97/98番が運行しています。会場にバス停が近いのは94,97番、乗車時間が短いのは98番と高速バスです。バス時刻表、路線図は「バスナビ沖縄」などでお調べ下さい。

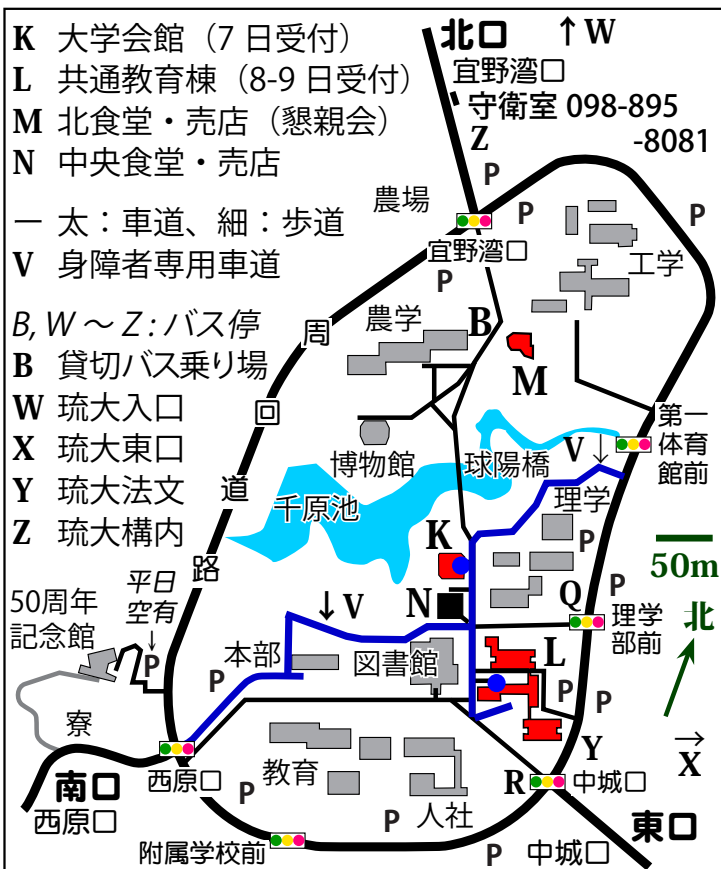
<http://www.busnavi-okinawa.com/map/>

★空港→111/152番高速バス琉大入口下車・徒歩8分（740円）

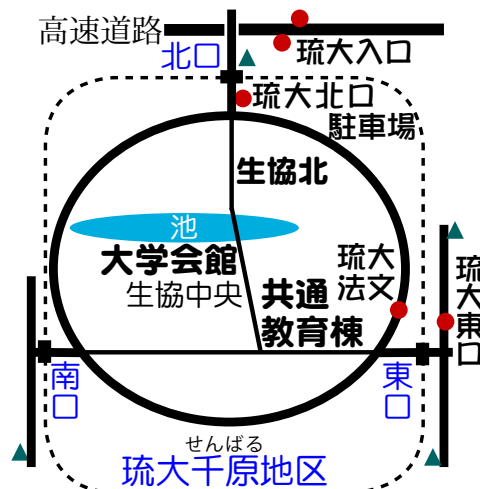
★旭橋駅→98番琉大北口駐車場下車徒歩5分 / 97番琉大東口下車徒歩4分。97,98番の他の乗換駅は右図参照。

★首里駅→94番琉大法学部前下車 徒歩1分（土日運休 370円・25分）・タクシー（15分・構内周回道路「理学部前」または「中城口（東口）」信号で下車・2千円）

■タクシーなど 3～4名で乗車すると割安ですので、乗り合い利用もご検討下さい。8、9日夜間は北口から入構して下さい。琉球大学には自家用車・レンタカー等で自由に入構できます。駐車場の利用も自由で無料ですが、平日日中は混雑します。



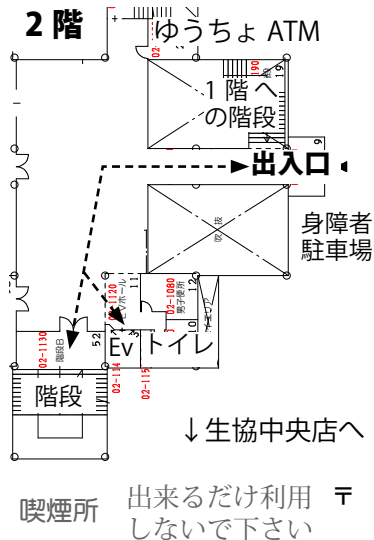
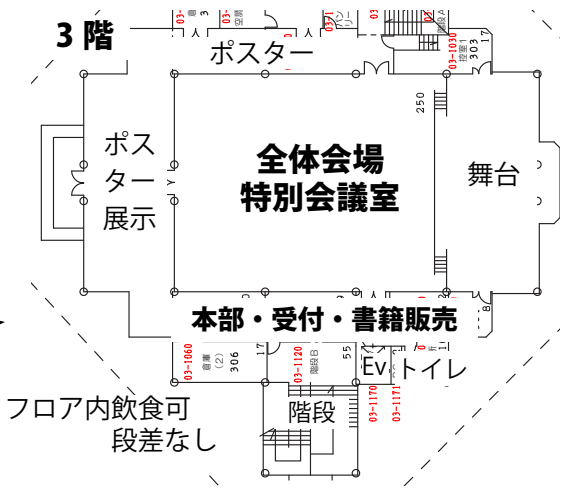
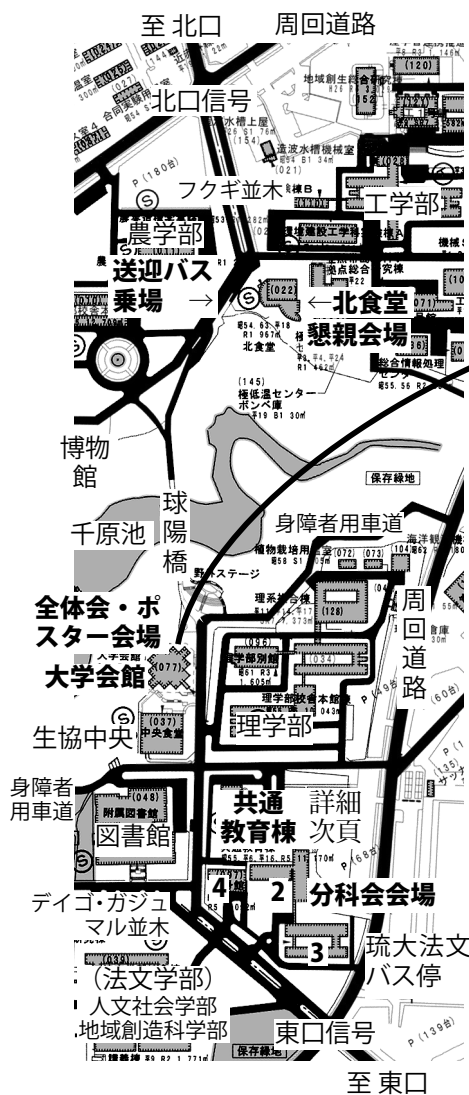
タクシー降場：Q 理学部駐車場 R 中城口前信号  
 実行委員会 当日緊急連絡先 090-1942-3094



北口（宜野湾口）常時開放・守衛常駐。  
 南口（西原口）・東口（中城口）7日 22:30・8,9日20:00に車道閉門・歩道は常時開放。▲コンビニ。●バス停。



**12月7～9日 全体会・ポスター展示会場（大学会館）のご案内**



◆大学会館は、出入口のあるフロアが2階です。入って左手の階段・エレベータで3階に上がると、総学の受付・全体会・ポスター会場です。

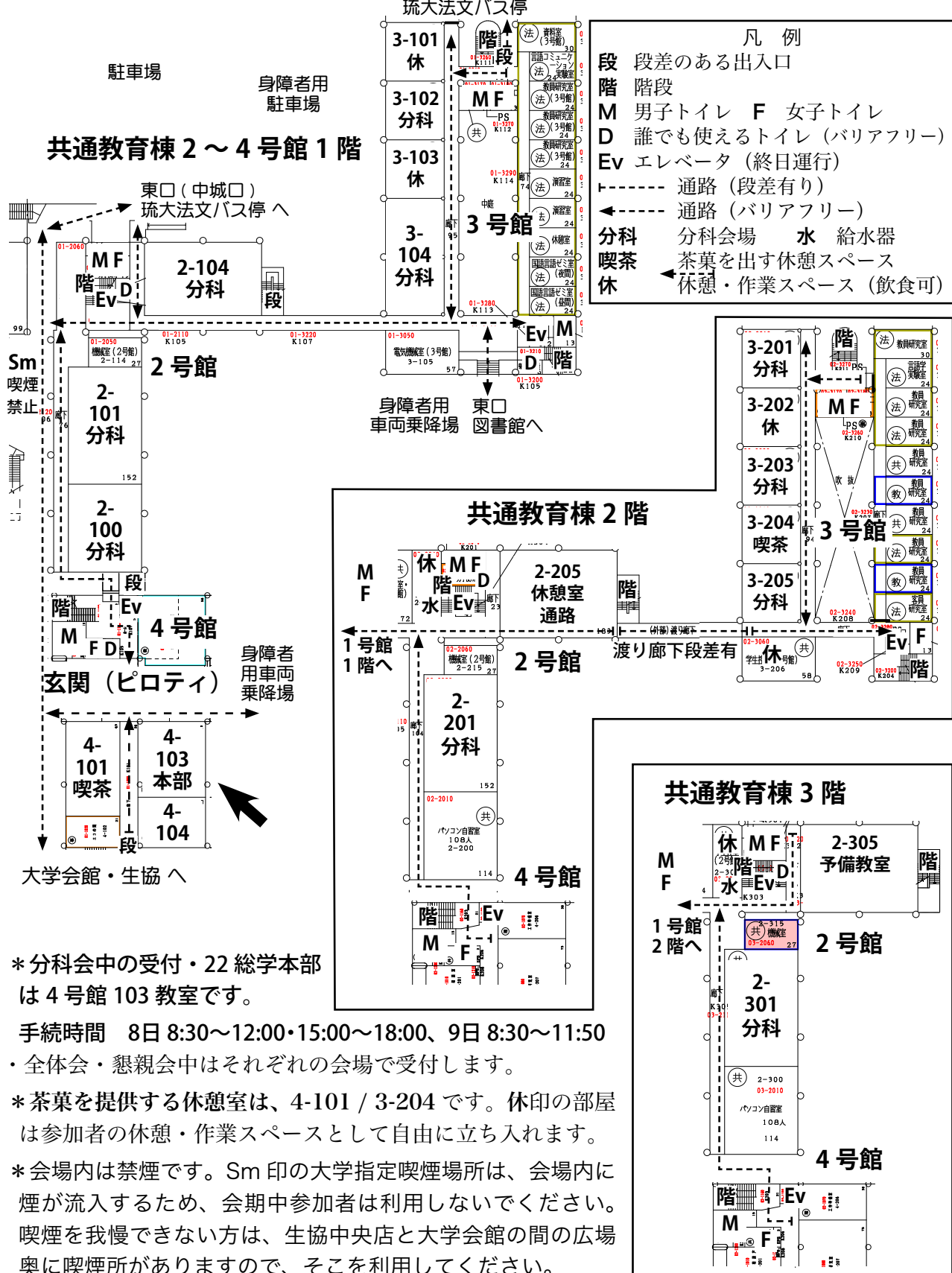
◆受付の手続時間  
 7日 13:00～20:50  
 8日 12:00～15:00  
 9日 12:00～16:15  
 ・8-9日の分科会開催中は共通教育棟 4-103室、8日夜の懇親会中は北食堂に、受付が移動します。

- ◆大学会館1階（地下）には休憩スペース、誰でも使えるトイレ（バリアフリー）、男女トイレがあります。バリアフリートイレは1階にしかないのので、車いす等の方はご不便でもエレベータで移動してご利用下さい。バリアフリートイレは隣接する生協中央店入口横にもあります。
- ★ 食事・購買 7日：全体会場隣の生協中央食堂（～19:40）・売店（～18:30）をご利用いただけます。また、徒歩3分で生協北食堂（～20:00）もあります。8日：生協中央食堂の昼食利用が可能です（11:30～14:30）。9日：大学構内の店舗・食堂は全て休業します。
- ★ コンビニエンスストアは、北口を出て徒歩1分のローソンが相対的に一番近いですが、いずれも会場から徒歩8～10分以上の距離にあります（5頁地図参照）。
- ★ ATMなど ゆうちょ銀行ATMが大学会館内にあり7日は稼働します。沖縄銀行ATMは北売店・中央売店図書館側にあり全日利用できます。郵便ポストは生協店舗前（1日1回16時頃収集）、郵便局は最寄りにありません。公衆電話は生協店舗1階にあります。
- ★ 図書館 7・10日 8:00～22:00、8・9日 8:30～22:00 開館です。博物館（風樹館）7・10日 10:00～16:00 開館、8・9日休館、お問合せは098-895-8841です。

喫煙所 出来るだけ利用 しない下さい

12月8～9日の会場案内図（共通教育棟 7日は使用しません）

北口方面 東口（中城口） 構内周回道路



\* 分科会中の受付・22 総学本部は4号館103教室です。

手続時間 8日 8:30～12:00・15:00～18:00、9日 8:30～11:50  
 ・全体会・懇親会中はそれぞれの会場で受付します。

\* 茶菓を提供する休憩室は、4-101 / 3-204 です。休印の部屋は参加者の休憩・作業スペースとして自由に立ち入れます。

\* 会場内は禁煙です。Sm印の大学指定喫煙場所は、会場内に煙が流入するため、会期中参加者は利用しないでください。喫煙を我慢できない方は、生協中央店と大学館の間の広場奥に喫煙所がありますので、そこを利用してください。

## 会場割り振り表

### 全体会 大学会館 3階 特別会議室

- 7日 14:00～17:40 全体会1：基地のない沖縄、平和憲法と共に歩む日本を展望する  
 18:30～20:50 特別講演会：沖縄に持続可能な社会を築くために  
 8日 13:00～15:05 全体会2：若者と一緒に考えるわたしたちの社会－沖縄から考える－  
 9日 12:15～13:45 全体会3：憲法・地位協定をめぐる課題と向き合う  
 14:00～16:00 討論集会：市民・社会とともにある科学の発展に向けて

**ポスター・展示 大学会館 3階 ロビー** 7日～9日 コアタイム 8日 12:00～13:00

**懇親会 生協北食堂** 8日 18:30～20:30

**分科会 共通教育棟 2-4号館** 割り振りは下表の通り。

共通教育棟 教室名	分科会Ⅰ 8日 9:00～12:00	8日 12:00 ～12:45	分科会Ⅱ 8日 15:15～18:15	分科会Ⅲ 9日 9:00～12:00
2号館 1階 100	A1：平和問題 (1)		A1：平和問題 (2)	G3：女性研究者問題を考える－不安定雇用の女性研究者の立場より
2号館 1階 101	D3：「共に生きる市民」を育てる「民主的シティズンシップ教育」		G2：大学問題を考える	D5：沖縄と平和教育
2号館 1階 104	H2：沿岸域を中心とした環境問題と保全・再生		C4：原発問題－福島原発災害を踏まえて、原発のない社会をつくるために	E2：辺野古の地盤・環境問題
3号館 1階 104	G1：独立行政法人制度を問い直す－広汎な共闘で抜本的な制度改革を…		A2：安倍政治の何が問題か－日本国憲法の視点から (1,2)	A2：安倍政治の何が問題か－日本国憲法の視点から (3)
3号館 1階 103		女性交流会 (P.12)		
3号館 1階 102	B1：国民生活向上のための経済運営はどうあるべきか		F1：生命倫理の諸問題	F2：保健・医療・福祉の飛躍的発展の道を探る－にんげんの世にある…
2号館 2階 201	C3：福島原発事故の放射能は本当に安全か？		B3：日本の農と食を考える	B2：沖縄経済の現状と課題
3号館 2階 205	H1：私たちが取り組んできた、地域の課題		E1：地震津波震災復興	D2：市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望
3号館 2階 203	D1：第7回複雑系科学シンポジウム－複雑系科学と唯物論の地平		D4：公共圏における多声性－芸術が提供する知の交換	G6：改めて今、研究者の権利・地位・倫理の課題を問う
3号館 2階 201	G4：科学・技術サロン－日本の科学・技術の現状とロマンを語る part11		G5：科学技術の現状批判－日本の科学・技術の健全な発展のための…	自由使用
2号館 3階 301	自由使用		C1：公害・環境問題の現在	C2：パリ協定をこえて



## 設置分科会一覧（分野別）

### **A：平和・憲法、政治、メディア、情報、歴史修正・戦争責任**

- A1 平和問題 第1部 I:2-100 第2部 II:2-100  
 A2 安倍政治の何が問題かー 日本国憲法の視点から 第1・2部 II:3-104 第3部 III:3-104

### **B：経済、21世紀社会論、農業・食糧問題、労働**

- B1 国民生活向上のための経済運営はどうあるべきか I:3-102  
 B2 沖縄経済の現状と課題 III:2-201  
 B3 日本の農と食を考える II:2-201

### **C：環境・公害・原子力**

- C1 公害・環境問題の現在 II:2-301  
 C2 パリ協定をこえて III:2-301  
 C3 福島原発事故の放射能は本当に安全か？ I:2-201  
 C4 原発問題ー福島原発災害を踏まえて、原発のない社会をつくるために II:2-104

### **D：科学とその普及、教育**

- D1 第7回複雑系科学シンポジウムー複雑系科学と唯物論の地平 I:3-203  
 D2 市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望 III:3-205  
 D3 「共に生きる市民」を育てる「民主的シティズンシップ教育」 I:2-101  
 D4 公共圏における多声性ー芸術が提供する知の交換 II:3-203  
 D5 沖縄と平和教育 III:2-101

### **E：防災・減災、震災復興、公共事業**

- E1 地震津波震災復興 II:3-205  
 E2 辺野古の地盤・環境問題 III:2-104

### **F：倫理・哲学、医療・福祉・人権、思想・文化**

- F1 生命倫理の諸問題 II:3-102  
 F2 保健・医療・福祉の飛躍的発展の道を探る III:3:102

### **G：学術、大学・研究機関のあり方、研究者の権利・社会的責任**

- G1 独立行政法人制度を問い直すー広汎な共闘で抜本的な制度改正を目指そう I:3-104  
 G2 大学問題を考える II:2-101  
 G3 女性研究者問題を考えるー不安定雇用の女性研究者の立場より III:2-100  
 G4：科学・技術サロンー日本の科学・技術の現状とロマンを語る part11  
 G5：科学技術の現状批判ー日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part11  
 G6 改めて今、研究者の権利・地位・倫理の課題を問う

### **H：JSA が取り組んできた地域の課題**

- H1 私たちが取り組んできた、地域の課題 I:3-205  
 H2 沿岸域を中心とした環境問題と保全・再生 II:3-205

ローマ数字は分科会枠、算用数字は共通教育棟の館番号と教室番号です。  
 例 I:2-100 は分科会 I・2 号館 100 教室で行われることを意味します。

## 目次

日本科学者会議第22回総合学術研究集会の沖縄開催に当たって (実行委員長・屋富祖 建樹)	2
交通案内・会場案内	4
開催日程・会場割振・目次	8
全体プログラム	12
分科会、ポスター・展示プログラム	14
エクスカージョン等プログラム	14

## 第22回総合学術研究集会予稿

### 全体会

#### 全体会Ⅰ 基地のない沖縄、平和憲法と共に歩む日本を展望する

徳田 博人 辺野古新基地と地方自治	32
亀山 統一 島の自然を守る意味 – 抑止力信仰から持続可能な社会へ	37
堀 良一 諫早湾干拓開門訴訟の問題点について	41
秋山 道宏 東アジアの非核化と米軍基地 – 沖縄から考える	46
池内 了 科学の軍事化の危機に（科学者として）どう対抗するか？ – 進む軍産学官複合体作り	51

#### 特別講演会 沖縄に持続可能な社会を築くために

宮城 秋乃 高江・安波の米軍ヘリパッド配置地域と北部訓練場返還地における 環境問題	55
仲里 利信 戦争体験や教科書検定意見の撤回、オール沖縄の取り組みなどを 通じて訴えてきたこと	60

#### 全体会Ⅱ 若者と一緒に考えるわたしたちの社会 – 沖縄から考える –

喜屋武 幸・名嶋 義直 シンポジウムの背景となる歴史的経緯や情報	64
----------------------------------	----

#### 全体会Ⅲ 憲法・地位協定をめぐる課題と向き合う

高作 正博 沖縄が問う民主主義と法治主義 – 憲法9条改憲論の意味と無意味	69
---------------------------------------	----

討論集会 市民・社会とともにある科学の発展に向けて	73
---------------------------	----

## 分科会

**A：平和・憲法、政治、メディア、情報、歴史修正・戦争責任**

A1 平和問題	78
A2 安倍政治の何が問題かー 日本国憲法の視点から	122

**B：経済、21世紀社会論、農業・食糧問題、労働**

B1 国民生活向上のための経済運営はどうあるべきか	116
B2 沖縄経済の現状と課題	124
B3 日本の農と食を考える	131

**C：環境・公害・原子力**

C1 公害・環境問題の現在	141
C2 パリ協定をこえて	156
C3 福島原発事故の放射能は本当に安全か？	166
C4 原発問題－福島原発災害を踏まえて、原発のない社会をつくるために	176

**D：科学とその普及、教育**

D1 第7回複雑系科学シンポジウムー複雑系科学と唯物論の地平	188
D2 市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望	198
D3 「共に生きる市民」を育てる「民主的シティズンシップ教育」	204
D4 公共圏における多声性－芸術が提供する知の交換	216
D5 沖縄と平和教育	228

**E：防災・減災、震災復興、公共事業**

E1 地震津波震災復興	240
E2 辺野古の地盤・環境問題	250

**F：倫理・哲学、医療・福祉・人権、思想・文化**

F1 生命倫理の諸問題	262
F2 保健・医療・福祉の飛躍的発展の道を探る	270

**G：学術、大学・研究機関のあり方、研究者の権利・社会的責任**

G1 独立行政法人制度を問い直す－広汎な共闘で抜本的な制度改正を目指そう	280
G2 大学問題を考える	288
G3 女性研究者問題を考える－不安定雇用の女性研究者の立場より	302
G4：科学・技術サロンー日本の科学・技術の現状とロマンを語る part11	308
G5：科学技術の現状批判－日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part11	318
G6 改めて今、研究者の権利・地位・倫理の課題を問う	328

**H：JSA が取り組んできた地域の課題**

H1 私たちが取り組んできた、地域の課題	340
H2 沿岸域を中心とした環境問題と保全・再生	348

**ポスター・展示**

巻末資料	362
うち分科会発表者索引	377
	394

## 全体プログラム

\*\*\* 12月7日(金) \*\*\*

**開会式・全体会Ⅰ** (7日 14:00～17:40 大学会館3階特別会議室)

### 基地のない沖縄、平和憲法と共に歩む日本を展望する

- 14:00～ 屋富祖 建樹 (実行委員長・沖縄支部代表幹事)・松田 正久 (副実行委員長・JSA 研究企画部長) 開会挨拶 ほか
- 14:15～ 徳田 博人 (琉球大学人文社会学部) 辺野古新基地と地方自治
- 15:00～ 亀山 統一 (琉球大学農学部) 島の自然を守る意味 - 抑止力信仰から持続可能な社会へ -
- 15:30～ 堀 良一 (有明訴訟弁護団事務局長) 諫早湾干拓開門訴訟の問題点について
- 16:00～ 休憩
- 16:10～ 秋山 道宏 (明治学院大学) 東アジアの非核化と米軍基地 - 沖縄から考える -
- 16:40～ 池内 了 (名古屋大学名誉教授) 科学の軍事化の危機に (科学者として) どう対抗するか? - 進む軍産学官複合体作り -

**特別講演会** (7日 18:30～20:50 大学会館3階特別会議室)

### 沖縄に持続可能な社会を築くために

- 18:30～ 開催の趣旨 屋富祖 建樹
- 18:35～ 宮城 秋乃 (チョウ類研究者) 高江・安波の米軍ヘリパッド配置地域と北部訓練場返還地における環境問題
- 19:40～ 仲里 利信 (前衆議院議員) 戦争体験や教科書検定意見の撤回、オール沖縄の取り組みなどを通じて訴えてきたこと
- 20:45～ まとめ (担当: 屋富祖 建樹・照屋 匡)
- \*全体会Ⅰ参加者は、会場隣の生協食堂等で夕食をお取りになり、引き続きご参加下さい。
- \*終了後、大学構内から那覇市街ゆき貸切バスを無料運行します。

\*\*\* 12月8日(土) \*\*\*

**分科会Ⅰ** (8日 9:00～12:00 共通教育棟)

**女性研究者交流会** (8日 12:00～12:45 共通教育棟3-103)

9日の分科会に先立って、お弁当をたべながら、交流・懇親し、女性研究者・技術者が現在おかれている状況についての意見交換もします。総学にいらしたすべての女性、また関心のある男性の参加を歓迎します。昼食はご持参ください。飲み物をご用意いたします。参加ご希望の方はできれば7日に受付にご連絡ください。ただし、当日参加も歓迎します。参加費100円です。  
(女性研究者問題委員会)

**全体会Ⅱ** (8日 13:00～15:05 大学会館3階特別会議室)

### 若者と一緒に考えるわたしたちの社会 - 沖縄から考える -

政治問題に無関心といわれてきた若者たちが、近年、政治問題に対して積極的に発言、行動

するようになった。記憶に新しいものでは、安保関連法案に反対して連日国会前で集会を開いた「シールズ」がある。沖縄でも例外ではない。辺野古、高江に代表される沖縄の米軍基地問題でも積極的に行動する若者たちがいる。今年2月の名護市長選挙でも若者たちの行動が勝敗を左右したといわれている。若者たちは「政治的若者」として登場してきた。

本企画は、このような若者を取り巻く状況を踏まえながら、日本・沖縄における社会問題・課題を、若者と一緒に考えようというものである。若者の視点を通して、日本の社会のありようを再定義し、未来への展望を切り開こうという試みである。今、若者たちが何を考え、どう行動しようとしているのか、4名の若者を招いてその意見を聞いて、シンポジウム形式でフロアのみなさんと共に考えたい。

(担当：喜屋武 幸・名嶋 義直、ファシリテータ：三村和則ほか現地実行委員)

## 分科会 II (8日 15:15 ~ 18:15 共通教育棟)

**懇親会** (8日 18:30 ~ 20:30 生協北食堂)(担当：大倉 信彦・泉水 奏・天久 和正)

18:30 ~ 朴木佳緒留 (JSA 代表幹事)、井原聰 (JSA 事務局長) 挨拶。主催校・支部歓迎挨拶。琉球舞踊(野原良子氏)・エイサー。各地区の参加者自己紹介など。

\*当日参加を受け付けます。終了後、食堂前から那覇市街ゆき貸切バスを無料運行します。

**\*\*\* 12月9日(日) \*\*\***

## 分科会 III (9日 9:00 ~ 12:00 共通教育棟)

**全体会 III** (9日 12:15 ~ 13:45 大学会館3階特別会議室)

### 憲法・地位協定をめぐる課題と向き合う

12:15 ~ 高作 正博 (関西大学) 沖縄が問う民主主義と法治主義 - 憲法9条改憲論の意味と無意味

12:25 ~ フロアからの討議

(担当：徳田 博人)

**討論集会** (9日 14:00 ~ 16:00 大学会館3階特別会議室)

### 市民・社会とともにある科学の発展に向けて

科学者の科学的探究は、一義的には自らの内側にある知的欲求・好奇心によって突き動かされる。しかし、それは科学が社会と切り離されてよいというわけでは決してない。むしろ、科学者は積極的に市民・社会と切り結び、その中から自らの問題意識を涵養し、また、科学の成果を社会に適切に還元する方途を考えなければならない。あるいは、より積極的に社会・市民の抱える課題を克服する為に、社会・市民とともに科学を発展させることも必要である。他方、多くの場合科学者は「大学」「研究機関」といった、社会から「隔離」された場にいるのであり、ややもすれば、科学と社会との関係を忘れがちである。

JSA は、設立当初から、科学的発展を常に社会・市民の立場に立ち、社会・市民にとっての科学とは何かを考えてきており、多くの実践が積み重ねられている。そこで、総学の総合討論集会において、JSA における実践の紹介・交流を通して、科学と市民・社会の関係について、様々な立場からの討論を行いたい。

(担当：全国事務局)

\*終了後、大学構内から空港行き無料貸切バスを運行します。



## 分科会プログラム

- A 平和・憲法、政治、メディア、情報、歴史修正・戦争責任
- B 経済、21世紀社会論、農業・食糧問題、労働
- C 環境・公害・原子力
- D 科学とその普及、教育
- E 防災・減災、震災復興、公共事業
- F 倫理・哲学、医療・福祉・人権、思想・文化
- G 学術、大学・研究機関のあり方、研究者の権利・社会的責任
- H JSA が取り組んできた地域の課題

分野別のテーマ一覧表、および会場割り振り表は、8-9 頁をご覧ください。

## 分科会 I: 12 月 8 日 9:00 ~ 12:00

### A1 平和問題 (第 1 部)

亀山 統一・前田 定孝 (JSA 平和問題研究委員会)

日本科学者会議は「科学の反社会的利用に反対し、科学を人類の進歩に役立たせるよう努力するとともに、国内国外の平和・独立・民主主義・社会進歩・生活向上のための諸活動との連帯をつよめ」との目的を掲げ、平和構築のための研究教育と科学者運動に尽力してきた。本分科会は、その成果を集約する。第一部では、軍学共同、大学での平和教育、沖縄問題への法学者の貢献など、教育研究機関や学界における諸問題を取り上げる。第二部では、基地・安保・「抑止力」・国際関係、倫理にかかわる問題を取り上げる。

9:00 ~ 亀山 統一 (JSA 平和問題研究委員会) 沖縄基地問題の展開 (1)

9:15 ~ 増澤 誠一 (東京支部・特許庁分会) 軍事技術・デュアルユース技術と知的財産  
— 何が問われているのか

9:45 ~ 齊藤 隆仁 (徳島大学) 安全保障技術研究推進制度と科学者の社会的責任

10:15 ~ 浜田 盛久 (海洋研究開発機構) 海洋の利用と開発は平和のために — 第 3 期海洋基本計画批判

10:45 ~ 堺 英二郎 (福岡支部 琉球大学元教授) 琉球大学における平和教育『核の科学』の  
実践と成果 — 『核の科学』35 年の実践を振り返って

11:15 ~ 休憩

11:20 ~ 前田 定孝 (JSA 平和問題研究委員会) 沖縄が問い続けてきた法治主義 — これ  
までの 75 年、そしてこれから

(分科会 II に続く)

## B1 国民生活向上のための経済運営はどうあるべきか

村上 研一（東京支部・中央大学分会）

時代錯誤のトリクルダウン論に基づいて、安倍政権は成立以来一貫して日米軍事同盟の強化を前提に大企業最優先の経済成長戦略を追求してきた。その結果、株高や円安の恩恵を享受できる一握りの大企業関係者・富裕層と圧倒的多数の勤労国民との所得格差、資産格差は急激に拡大し、非正規労働者、無年金・低年金の高齢者、母子（父子）家庭の多くが、「健康で文化的な最低限度の生活」すら確保することができないでいる。安倍政権による平和憲法の改悪を阻止し、政府の経済運営の焦点を生活の向上に転換するならば、現在の物質的生産力の基礎上で、国民生活は、どのように、そしてどの程度改善することができるのか、多角的に検討したい。

9:00～ 解題 村上 研一

9:05～ 仲村 政文（鹿児島支部）経済の軍事化をめぐる ― 論点開示

9:50～ 新村 聡（岡山大学・岡山支部）格差を考える ― 雇用・社会保障・税の一体改革のために

10:35～ 休憩

10:45～ 野村 康秀（東京支部・特許庁分会）成長戦略と知的財産政策 ― 財界主導の『Society 5.0 対応の知財システム』追求と混迷

11:30～ 総合討論

## C3 福島原発事故の放射能は本当に安全か？

宗川 吉汪（京都支部）

日本学術会議「子どもの放射線被ばくに関する報告」（2017.9.1）や復興庁「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」（2017.12.12）あるいは『しあわせになるための「福島差別論」』（2018.1.5）など放射能安全論が振りまかれている。本分科会では、甲状腺がんや周産期死亡率、急性心筋梗塞、米空母ロナルド・レーガン乗組員の被ばく、被ばく限度 20mSv、内部被ばく無視軽視、福島線の線量測定など具体的問題を取り上げて放射能安全論を批判する。

9:00～ 大倉 弘之（京都支部）二つのフクシマ ― 小児甲状腺がん「トモダチ作戦」の被ばく者

9:30～ 草野 清信（宮城支部）宮城県内では原発由来の放射能はどのように推移しているか ― モニタリングポストの実測データから自然放射能を分離する方法

10:00～ 松井 英介（乳歯保存ネットワーク・岐阜環境医学研究所）、市原 千博・星野 香・大沼 章子・中村 琢・寺尾 宏（乳歯保存ネットワーク）核による内部被曝の健康影響を解明する乳歯中ストロンチウム 90 測定

10:30～ 宗川 吉汪（京都支部）福島原発事故の被ばくによる甲状腺がんの発症 ― 彼らはなぜ被ばく発症を隠すのか

11:00 ~ 矢ヶ崎 克馬 (沖縄支部) 原発事故後放射線被ばく被害を隠ぺいする「核戦争」の展開

11:30 ~ 討論

## D1 第7回複雑系科学シンポジウムー複雑系科学と唯物論の地平

栗野 宏 (山形大学)

2010年の18総学(宮城)で分科会「複雑系科学と現代唯物論」を設けて以来、これまで総学を含めて6回の「複雑系科学シンポジウム」を重ねてきました。その間、哲学、歴史学、社会諸科学、自然諸科学にまたがる境界領域の多岐にわたる研究が紹介され、活発な議論が展開されました。今回、2016年の21総学(京都)以来2年ぶりの複雑系科学シンポジウムを開催し、2020年代の複雑系科学と唯物論のゆくえを展望します。

9:00 ~ 栗野 宏 (山形大学) 本シンポジウムへの序言

9:30 ~ 嶋田 一郎・小山 富男 (宮城支部) 「複雑系社会変革理論」研究で開かれた社会変革実践の地平

10:00 ~ 長野 八久 (大阪大学・大阪支部) 確率的資源分配モデルにおける階級生成機構の導入

10:30 ~ 栗野 宏 (山形大学) ホモサピエンス史における言語の起源と祖語の存在仮説

11:00 ~ 白井 浩子 (元岡山大学・岡山支部) 『見田石介 ヘーゲル大論理学研究』のもととなる勉強会音声記録の普及

11:30 ~ 総合討論

## D3 「共に生きる市民」を育てる「民主的シティズンシップ教育」

名嶋 義直 (琉球大学国際教育センター)

多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会がすでに存在しているにもかかわらず、「国民=日本国籍=主権者=日本語=アイデンティティ=民族=イデオロギー」という幻想がいまだ強固に存在し、主権者教育も選挙など「日本国民」を育てる教育の面が強調されがちである。本分科会では、その状況を批判的に捉え、「共に生きる市民」を育てる「民主的シティズンシップ教育(民主的市民性教育)」の必要性を主張し、私たち一人ひとりに何ができるかをフロアとともに考える。

9:00 ~ 大川 真 (中央大学) 日本におけるヘイトスピーチの系譜

9:20 ~ 喜屋武 盛也 (沖縄県立芸術大学) 社会教育施設としての美術館ーミュージアムとシティズンシップ教育の邂逅

9:40 ~ 中川 慎二 (関西学院大学) 「市民」について学ぶフィールドワークードイツでの実践から

10:00 ~ 質疑応答・休憩

10:35 ~ マイク ニックス・西 亮太 (中央大学) Active Learning Programme and Citizen-

ship Education: Toward an Inclusive Civil Society アクティブラーニング・プログラムと市民性教育－包摂的な市民社会へ向けて

(ニックスが英語で発表を行い、西が適宜翻訳する)

10:55～山森 理恵 (横浜国立大学)「共に生きる市民」を育てる教育実践－言語教育を例に

11:15～名嶋 義直 (琉球大学)「民主的シティズンシップ教育」を考える－ドイツの学校見学から

11:35～質疑応答

## G1 独立行政法人制度を問い直す－広汎な共闘で抜本的な制度改革を目指そう

小滝 豊美 (茨城支部・JSA 国公立試験研究機関問題委員会)

独立行政法人(独法)制度が施行されてから17年が経過した。この間、国の独法は何度も「改革」の対象に挙げられ、公設の試験研究機関も法人化や統合が進められた。国立大学も法人化された後、文科省による「改革」の押しつけが続いている。しかしその現場では、独法制度に込められた削減思想によって、事業の継続性さえ脅かされるような深刻な状況に至った。これを解決するには独法制度の抜本的な改正が不可欠である。この分科会では、抜本的な制度改革を目指す広汎な共闘をいかに展開するか考えたい。

9:00～小滝 豊美 本分科会の趣旨説明

9:05～日本国家公務員労働組合連合会 独立行政法人制度の現状と問題点

9:35～小滝 豊美 (JSA 全国国公立試験研究機関問題委員会・茨城支部) さらに拡大する国立研究開発法人の矛盾

10:05～長山 泰秀 (全国大学高専教職員組合) 国立大学法人運営費交付金の運用がまねく大学の危機

10:35～休憩

10:45～横山 敏郎 (JSA 全国国公立試験研究機関問題委員会・東京支部) 地方独立行政法人の現状と公設試験研究機関

11:15～総合討論

## G4 科学・技術サロンー日本の科学・技術の現状とロマンを語る part11

長田 好弘・松永 光司 (東京支部)

自衛隊明記で憲法改悪方針、軍拡突出予算、沖縄への核配備容認、米の新核戦略を「高く評価」、核兵器禁止条約反対(＝妨害)、先制敵基地攻撃態勢準備、「働き方改革実行計画」(＝過労死ラインにお墨付き)、原発・リニアセットのトップセール、サイバー空間の戦場化…。安倍政権の立憲政治破壊、極右化・ファッショ化への暴走阻止のために国民はこれまでになく科学を求めている。国民の求めに応えて科学・技術の現状とロマンを大いに語ろう。

- 9:00 ~ 長田 好弘 開会挨拶 (分科会趣旨説明)
- 9:10 ~ 小金澤 鋼一 (東海大学・東京支部) 大学がオープン&クローズ戦略に巻き込まれる
- 9:45 ~ 長田 好弘 (東京支部) 「統合イノベーション戦略」を読む - 主に「第6章(4) 安全安心」に注目して
- 10:20 ~ 中野 貞彦 (東京支部武蔵野通研分会・JSA リニア研究会) リニア工事实態調査 - 残土で谷を埋めるのは大問題
- 10:55 ~ 橋本 良仁 (東京支部・リニア中央新幹線問題研究連絡委員会) 悪夢の超特急・リニア中央新幹線と闘う市民たち
- 11:30 ~ 松永 光司 (東京支部) JSA 会則改定問題の議論を通じて深められた会の基本原則と教訓

## H1 私たちが取り組んできた、地域の課題

木下 統・合田 公計 (九州沖縄地区)

JSA は 47 都道府県におかれた支部を活動の基本組織とし、各地で毎年百件単位の多数の企画を行っています。また、地域や全国・国際規模の諸団体と連携して、さまざまな社会的活動も行っています。このように全国の JSA 会員が行ってきた研究・教育・普及活動、社会的活動は極めて多岐にわたります。その中から公募により特色ある 4 つの研究発表をいただき、この分科会をつくりまします。

- 9:00 ~ 河上 茂 (東京支部・個人会員世話人会) 30 年を迎える個人会員の地域での活動の進展 - 地域・市民との知の連鎖を目指す京浜地区学習会
- 9:35 ~ 河内 俊英 (久留米大学非常勤・福岡支部) 市民運動が数十年振りに変えた市執行部の計画
- 10:10 ~ 休憩
- 10:20 ~ 田島 康弘 (鹿児島支部) 鹿児島県の外国人労働者と地域社会 - 統計からみた動向
- 10:55 ~ 石山 潤 (兵庫教育大学学校教育研究科) 沖縄から国際協力を考える - マレーシアにおける JICA 青年海外協力隊の活動を通して
- 11:30 ~ 総合討論

## H2 沿岸域を中心とした環境問題と保全・再生

磯部 作 (JSA 瀬戸内委員会)

沿岸域では、依然として埋め立てなどが推進され、環境が破壊されており、また、温暖化に伴う問題や海ゴミ問題などが発生している。これに対して、埋め立て反対や「里海」づくり、「沿岸域管理」など、環境を保全し、再生する活動などが行われている。そこで、沿岸域を中心とした環境問題の状況を明らかにするとともに、環境問題を解決し、保全・



再生を図るためにはどのようにしていくべきかについて、議論し明らかにしていきたい。

9:00～磯部 作（岡山支部・JSA 瀬戸内委員会）沿岸域を中心とした環境問題と保全・再生－海ゴミ問題など（分科会解題を兼ねて）

9:15～富安 卓滋・佐藤正典（鹿児島大学）水俣湾底質中に残留する水銀の動態と環境影響

9:40～前川 盛治（泡瀬干潟を守る連絡会）泡瀬干潟埋立反対の闘いと今後の課題

10:05～今清水 雄二（元秋田大学）日本列島の温暖化と近海海面水温の上昇率

10:30～休憩

10:40～高山 進（三重支部）日米最初の沿岸域統合管理とその後の比較によってわかること

11:05～仲上 健一（立命館大学）沿岸海域の生態系サービスとサステナビリティ評価

11:30～総合討論（高山 進）・まとめ（磯部 作）

## 分科会 II: 12 月 8 日 15:15 ～ 18:15

### A1 平和問題（第 2 部）（分科会 I から続く）

亀山 統一・浜田 盛久（JSA 平和問題研究委員会）

15:15～亀山 統一（JSA 平和問題研究委）沖縄基地問題の展開（続）

16:20～富塚 明（長崎大学環境科学部）日米の「強襲揚陸艦部隊」の出撃基地と化す佐世保

15:50～今清水 雄二（秋田支部）弾道ミサイル防衛強化－イージス・アショア配備計画

16:05～藤岡 惇（立命館大学）「核ミサイル防衛」の第 3 段階と沖縄・東アジアの未来－朝鮮情勢の激変と陸上イージス

16:35～梶原 涉（東京支部）核兵器廃止・廃絶をめぐる攻防の現局面と運動の課題

17:05～木村 朗（鹿児島支部）朝鮮半島和解のダイナミズムと沖縄

17:35～松島 泰勝（龍谷大学経済学部・京都支部）学知の植民地主義批判－百按司墓琉球人遺骨を巡る人権と研究の対立

18:05～高作 正博（関西大学）全体会 III に向けたプレ発言

### A2 安倍政治の何が問題か－日本国憲法の視点から

小畑 隆資（JSA 憲法研究委員会・岡山支部）

本分科会は、「安倍政治の何が問題か」を「日本国憲法の視点」から解明する。安倍首相の 9 条改憲を柱とする「改憲政治」を「自民党憲法にもとづく政治」として捉え、「安倍政治」の特異性を解明する。また「安倍政治」＝「改憲政治」に対決する市民と野党

の共闘とは何かを、「日本国憲法にもとづく政治」＝「立憲政治」の視点から解明する。あわせて、日本国憲法の意義を鮮明にすることも課題としている。

15:15～小畑 隆資 A2 分科会の課題と構成

### 第1部 日本国憲法の原点－日本国憲法と天皇

15:25～中野 貞彦 (東京支部武蔵野通研分会) 幣原喜重郎の「戦争放棄思想」と天皇

### 第2部 日本国憲法の現段階－安倍政治の何が問題か

15:45～中島 茂樹 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部) 安倍「強権政治」の特質－新自由主義的統治をめぐる

16:15～中富 公一 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部) アベ政治の大学政策と学問の自由

16:35～竹内 俊子 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部) 教育政策－市民教育の視点から

16:55～村上 博 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部) 辺野古新基地政策－地方自治の視点から

17:15～休憩 17:25～第1・2部討論 (分科会 III に続く)

## B3 日本の農と食を考える

西村 一郎 (JSA 食糧問題研究委員会)

日本の農と食が資本の論理で一面的にゆがめられつつある中、TPPの発効などによってさらに悪化することが予想されます。低い食糧自給率や高齢化する生産者など現状の問題点を共有化し、そうした中で国民の立場でのあるべき農と食は、いったいどのように展開していけば良いのか多方面から考えます。

15:15～田中 陽子 (東京支部、コープニュース編集主幹) アメリカ東海岸の小規模有機農場の取り組み－有機農業とローカル、コミュニティのあり方

15:40～飯島 幸三郎 (東京支部、JSA 食糧問題研究委員会) 農業と食糧の確保

16:05～粟生田 忠雄 (新潟大学) 農村地域の持続性を考慮した小規模家族経営

16:30～小川 静治 (宮城支部、東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター事務局長) 被災地宮城における第一次産業の復興の現状と課題－農業復興を中心に

16:55～西村 一郎 (東京支部) 意欲的な農家の挑戦－The CAMPusの取り組み

17:20～休憩 17:25～総合討論

## C1 公害・環境問題の現在

畑 明郎 (滋賀支部)

本分科会は、各報告を通じて、国内・国際的な公害・環境問題についての、自然科学的・社会科学的な現状報告を行うことで、今後、日本科学者会議として取り組むべき課題を提示することを目的に設置する。各地域での公害・環境問題の現状と課題を討論する。

- 15:15 ～畑 明郎 開会あいさつ
- 15:20 ～高岡 滋（神経内科リハビリテーション協立クリニック）医学を機能停止させた水俣病認定基準の昭和 52 年判断条件
- 15:40 ～林 節男（富山支部）・畑 明郎（滋賀支部）イタイイタイ病発生源の神岡鉦山立入調査 45 年の教訓
- 16:00 ～畑 明郎（元大阪市立大学・滋賀支部）築地市場の豊洲移転問題
- 16:20 ～北川 喜久雄（北川内科クリニック・福岡支部）北九州市の環境は大丈夫か － PRTR 法と PM2.5 の関連から考察する
- 16:40 ～休憩
- 16:50 ～河内 俊英（久留米大学非常勤）環境ホルモン空騒ぎの真実 － 環境ホルモン無視する日本
- 17:10 ～中川 武夫（愛知支部）大深度地下法の手続きの問題 － リニア中央新幹線の例
- 17:30 ～小林 芳正（京都支部）低周波音被害をなくすために
- 17:50 ～山田 大邦（北海道支部大規模風力発電問題研究会）都市低周波音問題 － ヒートポンプ給湯機音被害
- 18:10 ～畑 明郎 まとめ

#### **C4 原発問題 － 福島原発災害を踏まえて、原発のない社会をつくるために**

山本 富士夫（JSA 原子力問題研究委員会）

日本科学者会議は、2011 年 3 月に発生した福島原発災害を踏まえて、全ての原発をなくすことを決議している。あれから 7 年を経過した今日も、小児甲状腺癌の発症が増えるなど、生命環境破壊が進んでいる。日本政府は、福島原発災害の教訓も反省も無視したまま、相変わらず「安全神話」のもとで原発再稼働を進めている。私たちは、政府の愚かな政策を批判し、「原発のない新しい社会」をつくるための理論と実践を積み上げる必要がある。

- 15:15 ～山本 富士夫（福井支部）開会挨拶
- 15:20 ～井原 聰（東京支部）・高橋 智子（山梨支部）新規制基準と脱原発 － 具体策は事業者任せの歴史的背景を検討する
- 15:45 ～河野 仁（元兵庫県立大学）福島原発事故による放射性物質の大気拡散予測解説
- 16:10 ～山本 雅彦（福井支部）名古屋高裁金沢支部・大飯原発差し止め取り消し判決を批判する
- 16:35 ～休憩
- 16:50 ～林 弘文（静岡支部）原発問題と地球温暖化
- 17:15 ～岩井 孝（茨城支部）・山本 富士夫（福井支部）廃炉・使用済燃料の課題
- 17:40 ～山本 富士夫（福井支部）原発推進は憲法違反ではないか
- 18:05 ～山本 富士夫（福井支部）閉会挨拶（分科会 C4 の総括）

#### D4 公共圏における多声性－芸術が提供する知の交換

ささき ようこ（愛知支部）

《親密圏》とは、いわば同一価値観の身内の場所。それに対して、《公共圏》には「他者」がいます。様々な人が異なる価値観を持ち立ち現れること、つまり「他者であること」が許される場です。これがなければ、マイノリティや異質な者には、その社会における居場所がありません。交差し合い、主張を闘わせあい、創造が生まれ、同質だから生きていてもいいのではなく、同質ではなくても異質な人々の存在が承認され居場所を分け合うという発想に至ることができる。そういう場所が《公共圏》です。

戦時中は公共圏が異常に縮小しますし、そのため、戦争記憶や軍備に関する議論にも似た傾向が起こります。現内閣が「この道しかない」とポスターに記すことは、こうした《公共圏》の点からとらえることができるのです。メディアや情報のなかで切り詰められる《公共圏》と「他者」。それを提供する場としてますます「芸術」に期待がかかります。この分科会では、芸術を介した「他者」との出会い、社会と芸術との関わりについて語って頂きます。

15:15～峯 良一（沖縄支部）1960年代の沖縄の祖国復帰運動と日本本土の連帯運動－  
ナショナルセンター総評の取り組みと文化運動の関連を手掛かりに

15:45～山本 桃子（早稲田大学 教育総合研究所）公共圏としてのミュージアム

16:05～陸奥 賢 他者と出会うためのコモンズ・デザイン

16:25～休憩

16:45～古後 奈緒子（大阪大学文学研究科）公共空間の創造とテスト

17:05～二宮 アユカ 紛争下で他者の声を聞かせる芸術

17:25～いのうえ しんぢ（イラストレーター）アートと社会運動をつなぐもの

17:45～全体討論

#### E1 地震津波震災復興

綱島 不二雄（宮城支部）

東日本大震災につづいて熊本地震、そして各地が自然災害に見舞われています。日本は災害大国であり、その発生頻度が高まることも予想されています。これからの震災復興に関しては、創造的復興に人間の復興理念を強く主張していく必要があります。今回の総学においては、経験を踏まえての教訓、被災者復興の現状と課題、自然に対する文系・理系を総合した研究の展開についても議論したいと思います。多方面からの参加を呼びかけます。

15:15～綱島 不二雄（宮城支部）あらためて大震災からの復興と被災者の権利を考える  
－ 報告「創造的復興論」と被災者の権利

15:40～嶋田 一郎（宮城支部）新しい人権、被災者の「復興権」の提唱を



- 16:05 ～ 井村 隆介（鹿児島大学・鹿児島支部）未災地から被災地を考える  
 16:30 ～ 麦倉 哲（岩手大学）犠牲者を忘れ去る国家に本当の復興はない — 戦災も震災も 岩手県大槌町と沖縄県渡嘉敷村での調査から  
 16:55 ～ 休憩  
 17:05 ～ パネリスト間討論・総合討論・まとめ

## F1 生命倫理の諸問題

黒須 三恵（JSA 生命と医の倫理研究委員会）

特定の問題に限定せず、生命倫理や価値に関連した議論をする。旧優生保護法下の障がい者など弱者への強制不妊手術の裁判が始まり被害補償など国の対応がもとめられている。新型出生前診断を日本産科婦人科学会が臨床研究に限定していた指針を変更し一般医療として認めるなど胎児の中絶、いのちの選別の拡大が懸念される。優生思想、いのちの（道徳）教育、生命倫理と科学の価値などについて検討する。

- 15:15 ～ 開会の挨拶  
 15:20 ～ 黒須 三恵（東京医科大学・JSA 生命と医の倫理研究委員会）新型出生前検査について  
 15:45 ～ 末永 恵子（福島県立医科大学）優生思想の戦前と戦後  
 16:10 ～ 尾崎 恭一（東京薬科大学・東京支部・生命と医の倫理研究委員会）医療倫理と小中学校道徳科 — 道徳科は医療倫理教育にも幾重にも有害である  
 16:35 ～ 宗川 吉汪（京都支部）生命倫理と科学の価値中立説  
 16:55 ～ 休憩     17:10 ～ 討論

## G2 大学問題を考える

松田 正久（愛知支部）

本分科会は、各報告を通して、大学のこれからの在り方について考察したい。国公立大学、特に国立大学にあっては、運営費交付金が減少する中、一法人複数大学化など統合の動きがある。その情報を共有し、そうした動きに対する JSA の基本的立場について議論したい。また、少子化の中でますます厳しくなる私学の問題などを出し合い、奨学金ローン化の問題や授業料無償化の動きを含めて、今後の高等教育のあり方を検討する。

- 15:15 ～ 松田 正久（愛知支部）日本の高等教育の諸問題  
 15:35 ～ 細井 克彦（大阪市立大学名誉教授）財界の大学支配の構造と戦略 — 学問の自由と自治の現代的意義に照らして —  
 16:05 ～ 前田 定孝（三重支部）国立大学の改革動向  
 16:25 ～ 井原 聰（東北大学名誉教授・東京支部）官邸主導の大学改革と学術研究体制の崩壊の危機について  
 16:45 ～ 休憩



- 17:00 ~ 高橋 智子 (山梨支部) 地方国立大学法人の現状と進行する大学改革の問題点  
17:20 ~ 武井 隆明 (岩手支部) 日本に於ける教育を改めて考えてみる — 学習指導要領から眺めた大学生になるまでの学習とは  
17:40 ~ 下山 智裕 (青森支部) 大学入学共通テストの英語 4 技能試験がもたらす入学者選抜試験への影響  
18:00 ~ 自由討論

## **G5 科学技術の現状批判 — 日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part11**

長田 好弘 (東京支部)・久志本 俊弘 (大阪支部)・矢作 英夫 (東京支部)  
神戸製鋼は、長年、自動車・航空機・鉄道車両など国民生活に影響甚大な製品の強度や寸法のデータを改ざんして出荷してきたことは国際問題にまで発展している。安倍政権も、「裁量労働制のほうが通常労働形態より労働時間が短い」と虚偽答弁を重ねて、年間 6000 時間も働くことが違法とされない仕組みを作ることに専念してきた。科学・技術力の向上と製品の信頼性向上のためにも資本の横暴、政治の横暴をただす現場での草の根のたたかひがますます重要となっている。職場の実態報告、市民との新しい連帯の探究のための議論、交流の場としたい。

- 15:15 ~ 長田 好弘 あいさつ (分科会設置趣旨説明)  
15:20 ~ 野村 康秀 (JSA 科学・技術政策委員会) 統合イノベーション戦略が狙う日本の科学・技術、学術の変質  
15:50 ~ 酒井 士朗 (東京支部・民間問題委員会) 「働き方改革」法の具体化を許さず撤廃を — 研究所における裁量労働制めぐりの闘いの教訓にもふれて  
16:20 ~ 休憩  
16:30 ~ 矢作 英夫 (東京支部) 国民のプライバシーを侵害する個人情報の民間活用  
17:00 ~ 出口 幹郎 (大阪支部) パリ協定に逆行する神戸製鋼の石炭火力発電 — 神戸製鋼に 26 年間在籍した技術者の報告  
17:30 ~ 長田 好弘 (東京支部) 「統合イノベーション戦略」を読む — 主に「第 4 章 知の社会実装」に注目して  
18:00 ~ 総合討論

## **分科会 III: 12 月 9 日 9:00 ~ 12:00**

### **A2 安倍政治の何が問題か — 日本国憲法の視点から (分科会 II から続く)**

- 小畑 隆資 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部)  
9:00 ~ 小畑 隆資 日本国憲法の未来 — 市民と野党の共闘の現状と展望 (第 1・2 部の概要と第 3 部の課題と構成)

### 第3部 日本国憲法の未来 — 市民と野党の共闘の現状と展望

- 9:10 ~ 小畑 隆資 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部) 「市民と野党の共闘」とは何か — 「立憲政治」の視点から
- 9:40 ~ 榊原 精 (JSA 憲法研究委員会・岡山支部) 「おかやまいっぽん」の市民による政策提案
- 10:00 ~ 「市民と野党の共闘」について各地域からの報告 (フロアから)
- 10:30 ~ 休憩    10:40 ~ 第3部討論    11:30 ~ 全体討論・まとめ

### B2 沖縄経済の現状と課題

米田 貢 (東京支部・中央大学分会)

国土の0.6%を占めるにすぎない沖縄県に在日米軍基地の70%が集中している現実を、自らの問題として受け止めようとする人々が増えている。だが他方で、これらの人々も含めて、現在の沖縄がいまなお米軍基地に依存した県民経済であり、日本政府はカネのバラマキで沖縄県民を懐柔していると誤解する人々が多い。沖縄の経済と生活のリアルな状況の報告に基づき、参加者全体で沖縄の県民経済の自主的な発展とは何かを考えてみたい。

- 9:00 ~ 米田 貢 解題
- 9:05 ~ 前泊 博盛 (沖縄国際大学) 沖縄はいま — 経済、基地、政府予算
- 9:50 ~ 安里 長従 (司法書士) 持続可能な社会への変革をともに — 社会的排除からみる沖縄の貧困
- 10:35 ~ 休憩
- 10:45 ~ 米田 貢 (東京支部・中央大学) 地域経済・国民経済の視点から沖縄経済を考える
- 11:30 ~ 総合討論

### C2 パリ協定をこえて

岩本 智之 (JSA 中長期気候目標研究委員会 JSA-ACT)

2015年に採択されたパリ協定は21世紀中の世界の平均気温上昇を2℃までに抑え、可能なら1.5℃より小さくするための国際的枠組みとして重要である。しかしIPCCは2040年代には1.5℃に達するとの見方をまとめつつあり、温室効果ガス排出削減はいつそう緊急性を増している。本分科会は21総学での議論を踏まえ、化石燃料と原子力に依存しない自然エネルギーへの移行の現段階の課題を明らかにし、社会に発信しようとするものである。

- 9:00 ~ 【特別講演】 ケンジ ステファン スズキ Kenji Stefan Suzuki (SRA Denmark・風のがっこう代表) 市民参加を義務付けたデンマークのエネルギー政策とその国情
- 10:00 ~ 討論    10:20 ~ 休憩

- 10:30 ~ 歌川 学 (産総研) 気温上昇 2℃目標の炭素予算 - 日本への割り振り  
10:45 ~ 草野 清信 (宮城支部) 持続可能な社会の建設(その5) - 水素の液化、CO2 フリー社会、水素社会  
11:00 ~ 河野 仁 (元兵庫県立大学) 気象学の視点から見た沖縄における風力発電の可能性  
11:15 ~ 岩本 智之 (大阪支部) 豪雨、猛暑、台風 - 2018 年夏の「異常気象」  
11:30 ~ 総合討論

## D2 市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望

長野 八久 (『日本の科学者』編集委員会)

市民と科学者を結ぶユニークな雑誌『日本の科学者』(「JJS」)を進化、普及させ、社会発展に貢献する雑誌に育てるため、以下のような諸点から問題提起を行い、意見を交換する。1. JJS の歴史、海外の類似雑誌、2. 科学の産業化、科学者の労働者化、科学者の権利、3. 現代における科学者と市民の関係、科学と市民社会との関係、科学リテラシー、4. 現代における JJS の役割、5. インターネットとの連結 オープンアクセス 双方向性、6. 研究者の国際連帯交流、平和への貢献、7. 魅力ある創造活動としての JJS 編集、現代社会における科学の課題を発掘する。

9:00 ~ 長野 八久 (『日本の科学者』編集委員会) 『日本の科学者』の現状と課題

9:20 ~ 宗川 吉汪 (京都支部) 『日本の科学者』の目指すもの

9:40 ~ 討論 1

10:00 ~ 白井 浩子 (元岡山大学・岡山支部) 哲学と生物進化論の出会い - 見田石介氏と井尻正二氏の交流

10:30 ~ 討論 2      11:30 ~ まとめ

## D5 沖縄と平和教育

杉田 明宏 (大東文化大学)

本分科会では、学校や社会における平和学習・平和教育に関して「沖縄」という角度から考察を深めることを目的とし、ポイントとして次のような観点を想定している。(1) 沖縄では、県内と県外の連帯と交錯する中、軍事基地問題が深刻化している。この状況を、沖縄の内・外の双方において教育を通じてどのように変えていくことができるかという視点で考え合いたい。(2) 平和教育の目的は「平和の主体」を形成することにあるといえるが、その内容は普遍性を持つものとしても、沖縄の内と外、あるいは基地・現場との距離、世代によって異なるプロセスや力点を持つものではないか。沖縄および各地の具体的な実践を踏まえてそのことを考えてみたい。

9:00 ~ 杉田 明宏 (大東文化大学) 分科会趣旨説明

9:05 ~ 出口 幹郎 (JSA 大阪支部) 沖縄戦の悲惨さを伝える技術者の取り組み - 2009

年 10 月と 2010 年 4 月に 13 日間一人で沖縄を訪れた結果に基づいて

- 9:30 ~ 行田 稔彦 (元和光大学、元和光小学校・和光鶴川小学校校長) 平和に生きる主体を育てる「平和教育」— どう語り継ぐ「平和・沖縄」
- 9:55 ~ 山口 剛史 (琉球大学教育学部) 沖縄における平和教育実践研究 — 普天間第二小へり窓落下事件を考える
- 10:20 ~ 古賀 徳子 (ひめゆり平和祈念資料館) ひめゆり平和祈念資料館におけるメモリーウォークの取り組み — 映像制作による新しい平和教育のあり方考える
- 10:45 ~ 高橋 順子 (日本女子大学非常勤講師) 沖縄の平和教育における沖縄戦学習の変遷 — 沖縄教職員会・組合教育研究集会を中心に
- 11:10 ~ 北上田 源 (琉球大学非常勤講師) 直接的平和教育と包括的平和教育をめぐる葛藤 — 沖縄県教委『平和教育指導の手引き』を現場教員はどう受け止めたのか
- 11:35 ~ 総合討論 (司会 杉田 明宏)

## E2 辺野古の地盤・環境問題

中山 俊雄 (東京支部)

辺野古新基地建設予定地には、アオサンゴ群落、ジュゴンの生息地などの環境破壊の問題に加え、活断層、軟弱地盤など地盤にも問題のあることが指摘されている。本分科会ではこれらの問題点を取り上げ検証する。

- 9:00 ~ 中山 俊雄 (東京支部) 分科会趣旨説明
- 9:05 ~ 奥間 政則 (一級土木施工管理技士) 辺野古新基地建設で大浦湾に設置される汚濁防止膜の問題点 — 環境破壊につながる虚偽の報告書
- 9:35 ~ 中本 正一郎 (元地球科学技術総合推進機構主任研究員) われわれは流体力学と如何に付き合うか?
- 10:05 ~ 粟生田 忠雄 (新潟大学) 辺野古の環境アセスメント軽視を安保法体系から考える
- 10:35 ~ 加藤 祐三 (沖縄支部) 辺野古海域に推定される活断層と軟弱地盤
- 11:05 ~ 立石 雅昭 (新潟支部)・中山 俊雄 (応用地質研究会) 琉球列島周辺の地震動と辺野古新基地埋め立て地の地盤の安定性
- 11:35 ~ 総合討論

## F2 保健・医療・福祉の飛躍的発展の道を探る — にんげんの世にある限り向上・発展させるべき課題とは？

片平 洸彦 (健和会 臨床・社会薬学研究所)

日本国憲法第 25 条は、国民の健康で文化的な生活を営む権利と、その権利を保障し向上させる国の努力義務をうたっている。今日、憲法問題では専ら第 9 条「改正」が日々



マスコミで報道されていて、第25条をもとにどのようにして権利を保障し、向上させるかという議論は表出していない。こうした権利の保障が保健・医療・福祉の増進・向上につながることは言うまでもない。平易な言葉で言えば、地域レベルでも国レベルでも、さらには国際レベルでも、保健・医療・福祉を向上・発展させることが自治体・政府・国際機関に求められており、その努力義務を怠ることは許されない。本分科会では、こうした視点に立って、地域・国・国際の各レベルで、保健・医療・福祉を向上・発展させるには、どのような視点で、どのような取組みが求められているかを、各演者が直面している課題に即して問題提起をしていただき、問題解明・解決の方途を、参加者全体の議論を通じて考察し深めたい。

9:00 ~ 片平 洸彦・榎 宏朗 開会挨拶・司会挨拶

9:10 ~ 特別講演 野田 浩夫 (山口支部) 健康格差の実態とその解消の方策について

10:15 ~ 中島 雅登 (東京支部) 精神障害になった私 — 嬉しさ7割、不安3割

10:35 ~ 太田 智之・榎 宏朗 (健和会 臨床疫学研究所) サービス付き高齢者向け住者住宅は利用者に安寧の場を提供しうるか?

10:55 ~ 篠原 直孝・榎 宏朗 (医療法人財団 健和会) 地域包括ケアシステムの構築と平成30年度の介護・診療報酬改定における入院医療の概要とその論点

11:15 ~ 酒田 和久 (東洋大学大学院博士後期課程) 在宅における家族が関わりを拒否する独居高齢者の看取りのケア — ケア提供する医師・訪問看護師・ヘルパーの語りから

11:35 ~ 片平 洸彦・榎 宏朗 (健和会 臨床・社会薬学研究所) 薬害事件における「初動調査」の実施と、その結果をその後の施策に生かすことの重要性 — スモン、薬害C型肝炎、HPVワクチンを事例として

11:55 ~ 閉会挨拶

### G3 女性研究者問題を考える — 不安定雇用の女性研究者の立場より

笹倉 万里子 (岡山支部)

女性研究者・技術者委員会は分科会を開催し、さまざまな側面から女性研究者問題を検討してきた。文部科学省による女性研究者支援事業が一定程度広がる中で、「科学技術の発展を支える女性研究者」とはどのような人々か、その実情を明らかにするための『調査チーム』を2017年度に発足させた。今回は『不安定雇用の立場の女性研究者の実情』に関する質的調査について中間報告を行い、問題の所在を多面的に議論したい。

9:05 ~ 深谷 桃子 (琉球大学) 大学における任期つき女性教員・研究者の就労環境に関する問題 — 事例と分析

9:45 ~ レイフィールド 典子 (琉球大学ほか非常勤講師) 非正規女性教員・女性研究者の労働と研究環境 — 沖縄県のアンケート調査から

10:25 ~ 休憩



10:35 ~ 大竹 美登利 (東京支部・東京学芸大学)・朴木 佳緒留 (兵庫支部・京都教育大学)・笹倉 万里子 (岡山支部・岡山大学)・真嶋 麻子 (東京支部、日本大学)・廣森 直子 (青森支部・青森県立保健大学)・衣川 清子 (東京支部、非常勤講師)・斎藤 悦子 (東京支部・お茶の水女子大学) 不安定雇用の女性研究者の立場より女性研究者問題を考える - JSA 女性研究者・技術者調査チームによる不安定雇用の立場の女性研究者の実情に関する質的調査結果報告

◆女性研究者の交流会 [8 日 12:00 ~ 12:45] → 12 頁。

## G6 改めて今、研究者の権利・地位・倫理の課題を問う

丹生 淳郷 (埼玉支部・JSA 科学者の権利問題委員会)

約 40 年ぶりにユネスコ「科学研究者の地位に関する勧告」が、昨年 11 月に「科学及び科学研究者に関する勧告」として全面改定された。JSA は 2007 年に「研究者の権利・地位と倫理」報告を公表しており、これを機にユネスコ改定文書と併せ、その意義を改めて問い直すとともに、今日的課題である研究倫理確立のための実践、機関トップの研究不正への対応と課題、今後顕在化するであろう研究者の多様性に対する理解と権利などを探る。

9:00 ~ 丹生 淳郷 分科会趣旨説明

9:05 ~ 丹生 淳郷 (JSA 科学者の権利問題委員会) ユネスコ「科学と科学研究者に関する勧告」と JSA 「研究者の権利・地位・倫理に関する報告」の今日的意義

9:30 ~ 原田 英美子 (滋賀県立大学環境科学部) 研究不正とアカデミックハラスメントに負けないための研究倫理教育プログラム構築

9:55 ~ 休憩

10:00 ~ 重松 公司 (岩手大学教育学部・岩手支部) 井上明久・元東北大学総長の研究不正疑惑

10:23 ~ 高橋 禮二郎・大村 泉 (宮城支部) 井上明久東北大学元総長らの画像流用の構図

10:46 ~ 大村 泉・高橋 禮二郎 (東北大学・宮城支部) 井上明久東北大学元総長の研究不正疑惑と東北大学・日本金属学会の対応

11:10 ~ 休憩

11:15 ~ 中島 雅登 (東京支部) “調査する側” と “調査される側” を経験して

11:40 ~ 総合討論

## ポスター・展示

★ポスター・展示 (7 ~ 9 日 大学会館 3 階ロビー)

上原 一路 (糸満市立糸満中学校 1 年)・上原 諒 (糸満市立糸満南小学校 1 年)・上原 之映 (沖繩支部) 大浦湾瀬嵩浜における打ち上げ貝の採集記録

田港 朝昭 (沖縄支部) 沖縄県における大正・昭和期民衆運動

わたなべ ゆうこ 世界と日本の HPV ワクチン被害から、医療と人権を考える

庄司 善哉 (岐阜支部) 中央新幹線中央アルプストンネル (山口) 残土運搬と通学路・大気汚染

今清水 雄二 (元秋田大学) イージス・アショア秋田市配備計画反対運動

今清水 雄二 (元秋田大学) 被爆国の科学者として核兵器禁止条約の発効を訴える

杉浦 公昭 (元東洋大学工学部) 「戦争する国造り」反対の最前線 辺野古新基地建設への非暴力抵抗と選挙闘争による主権者の学習

石渡 眞理子 (東京支部) 豊洲新市場の問題 - 地下に有害物を抱える「安全でない市場」のこれからを考える

日本科学者会議各支部の活動紹介

10月末現在

\*ポスターの掲示期間は7日(金) 13:30 ~ 9日(日) 16:00 です。8日(土) 12:00 ~ 13:00 はコアタイムですので、発表者は可能な限りでポスターの前にお立ちくださり、参加者との闊達な議論を深めて下さい。

## エクスカージョン

### (P) 「中部基地視察」 7日9時那覇市内発、13時琉球大学着。

普天間基地、座喜味城跡(読谷村)、嘉手納基地の視察を行います。中部基地平和学習の標準コースを平和ガイドの案内で回ります。(ガイド 横田 眞利子氏(沖縄県平和委員会)、車長 賀数 清孝)

### (S) 「石垣・西表のマンングローブ・自然」 10日9:15石垣港離島棧橋集合・11日15時半同港解散

亀山統一氏のガイドで10日午後の干潮時に、西表島西部の浦内川マンングローブや河口部を歩いてつぶさに自然観察をする。11日は参加者の旅程と天候に合わせ、西表島/石垣島を散策する。(ガイド 亀山 統一)

### (T) 「伊江島の戦跡・戦後運動跡地」 10日8時那覇市内発、11日15時那覇空港解散。

本部半島の港からフェリーで伊江島に渡り、山内榮氏のガイドで、沖縄戦、戦後の米軍の強制的・暴力的土地収奪と、それに対する「非暴力のたたかい」、現存する海兵隊訓練場を知る。反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」謝花(じゃはな)悦子さんの講話もあります。(ガイド 山内 榮、車長 照屋 匡)

### (V) 「北部基地・辺野古視察」 10日8時那覇市内発、15時半那覇空港解散。

キャンプハンセン、キャンプシュワブ、辺野古ゲート前・辺野古の浜を見学する。北部基地平和学習の標準コースを平和ガイドの案内で回るので、沖縄に初めて来た方に向けた企画。(ガイド 与儀 喜一郎氏(沖縄県平和委員会)、車長 泉水 奏)